

514有害物を起因物とする死傷災害100事例まで（2018年）

No	年	月	発生時	死傷災害事例	年齢	事故の型	小業種	労働者規模
1	2018	1	14 ～ 15	事務所内で、空間除菌剤の蓋を開けて顔を近づけたところ、誤って吸引してしまった。	40	12	80109	30 ～ 49 人
2	2018	1	0 ～ 1	工場無菌水室で、ストレーナー（ろ過装置）の確認作業をしようとして、ストレーナーの入っているハウジングの蓋を開けようとしたところ、誤って隣のCIP洗浄実行中のハウジングの蓋も開けてしまい、高温のアルカリ性洗浄液が噴出し体にかかってしまった。機械画面表示を操作すれば、洗浄中ということがわかったものの、確認するという作業はしていなかった。	45	12	10106	50 ～ 99 人
3	2018	1	15 ～ 16	建物南側外部で、埋設配管工事をしているときに、施工完了の配管が埋め戻し途中の状態、材料の運搬中に配管天端に足をかけたところ足が滑り、右足大腿裏が伸びた状態となり、肉離れを起こした。	40	12	10102	50 ～ 99 人
4	2018	1	15 ～ 16	担当エリアのお客様宅に定期訪問し、自転車で移動中、出会い頭にバイクと衝突した。	40	12	170101	300 ～ 499 人
5	2018	1	10 ～	配達先でトラックを左側に寄せて駐車した。インターフォンを鳴らし、荷物を取り出すためにサイドドアを開けて荷物を持って振り	39	12	150101	100 ～

			11	返った際に横にあった溝に落ちて左膝を負傷させる。					299 人
6	2018	2	13 ～ 14	ワクチン器材の洗浄作業中、消毒薬の入った容器を持ってドアを開けたところ、手を滑らせ容器を落とし、消毒薬液が飛び散り、顔や目に入り火傷した。	33	12	70101		10 ～ 29 人
7	2018	2	7 ～ 8	冷蔵庫とシンクの間隙間を清掃中、ブラシに付いていた洗剤が飛んで顔についたため指で拭き取り、その指で左目を擦ったところ赤く腫れた。	69	12	150101		500 ～ 999 人
8	2018	2	11 ～ 12	希塩酸水に漬けた波板を波板洗浄機で洗う際、波板を引っ掛けてタンクから取り上げるべきところ、ゴム手袋をはめた右手で引き上げていた。その際に、手袋の破れた部分から希塩酸が入り込み、右手の中指付け根、くるぶし、肘の3箇所を火傷した。	63	12	70209		10 ～ 29 人
9	2018	3	17 ～ 18	噴射攪拌工の排泥処理を排泥ピット内で行っていた。ヤッケと長靴・ゴム手袋のすそを幅の広いビニールテープで留めていたが、隙間から排泥が入り、アルカリ分による炎症をおこし、翌日足が腫れ、歩行も困難になった。	49	12	30106		1～ 9人
10	2018	3	18 ～ 19	製品の幅汚れを落とすため、製品を洗浄湯（パラオール）に浸して取り出す作業をしていた。作業中に違和感を抱き、火傷に似た症状が出た。	36	12	11301		500 ～ 999 人
11	2018	3	9 ～ 10	ボディーコーティング作業の前処理として、リムーバー液を使用してボディーの水あか除去作業をしていた。その液剤の影響により、手が化膿して腫れ、特に右手の腫れがひどくて、右手親指が一部表皮壊死し、右手が使えなくなった。	35	12	80202		1～ 9人
				販売したクロム酸でメッキ液（液に触れると皮膚の変色や炎症等を起こす）を作る作業中に被災した。メッキ液を作るための					

12	2018	3	17 ～ 18	1×1.5×1.5Mほどのタンクにフレーク状のクロム酸を入れていたところ、足元の長靴にクロム酸が入ってしまった。そのとき長靴の内部が濡れていたため、その水分にクロム酸が反応しメッキ液の状態になってしまい、液体が当たっていた、右足の甲の皮膚が変色してしまった。	44	12	80109	10 ～ 29 人
13	2018	4	8 ～ 9	積載してきた廃棄物を降ろすため、トラック（10t）の荷台でシートをめくるための作業をしていたとき、雨が降っていて荷台のあたりが濡れていて滑ってバランスを崩したため、飛び降りたとき（約2m）左足から着地し、そのときに負傷してしまった。	46	12	30209	1～ 9人
14	2018	4	5 ～ 6	茹で室で酢酸タンクから酢酸をプラスチック製タンクへ移している際、防護面の視界部分が蒸気により曇ってしまった。そのため、防護面を外し曇りを取り除いた防護面の、未装着での作業は、本来であれば中断しなければならないが、中断せず防護面を外したまま作業を続けたところ、プラスチック製タンク内の容量を確認しようと投入口に顔を近づけた際に、跳ねた酢酸が両目に混入し受傷した。	49	12	10109	100 ～ 299 人
15	2018	4	14 ～ 15	当社工場で洋白材の品物に付着したサビや汚れを取るため、容器に入った硫酸と硝酸を混ぜた液につける作業をしていた際、煙を吸ってしまい受傷した。	78	12	11101	1～ 9人
16	2018	4	4 ～ 5	当社工場内亜鉛鍍金作業場にて、消耗した亜鉛板を新しい極板に取り替え作業中、移動しようとしたところ、足が滑り薬品がかかり火傷した。	63	12	11209	30 ～ 49 人
17	2018	4	9 ～ 10	軍手をつけて金属部品の接着作業をしていたところ、接着剤が軍手に侵入して火傷をした。	49	12	10806	50 ～ 99 人

18	2018	5	15 ～ 16	バンバリーミキサーにて、原料仕込み作業及び混錬作業を担当し、製品の3度目の生産で首、手首、腕、足に発疹がでた。	40	12	10801	50 ～ 99 人
19	2018	5	14 ～ 15	倉庫内で、半導体機械解体作業中に、附属部品の液体が入ったタンクに繋がるホースを切断した際、ホースから液体が漏れ出し患部に付着した。すぐに洗い流したが時間の経過とともに痒みが発生し、腫れて皮膚もただれた。	52	12	30302	1～ 9人
20	2018	5	10 ～ 11	客先工場にて、遠心分離機の供給口配管取り外し中に間違えて作業者が供給バルブを開けてしまったため、苛性ソーダ（90℃、3%濃度）が噴き出し被災者に飛散し、左目、左腕、下半身両足に火傷を負った。	60	12	11301	300 ～ 499 人
21	2018	5	10 ～ 11	化学合成工場内でアトロピンの結晶を遠心分離機から取り出す作業後に、被災者が眩しいと訴えたため、飛散した粉体が目に混入し、散瞳したと判断し流水で洗浄後、暗所にて休ませ、病院受診したが症状が改善しなかった。	45	12	10803	30 ～ 49 人
22	2018	5	15 ～ 16	鍍金槽に繋がっている濾過機の下受け皿に溜まった粉を雑巾で拭き取り作業中、誤って肘がポンプに当たってしまい、栓が外れ、アルカリ性液が噴出し、顔、上肢、下肢にかかり受傷した。	43	12	11204	50 ～ 99 人
23	2018	5	15 ～ 16	鍍金槽に繋がっている濾過機の下受け皿に溜まった粉を雑巾で拭き取り作業中、誤って肘がポンプに当たってしまい、栓が外れ、アルカリ性液が噴出し、顔、上肢、下肢にかかり受傷した。	43	12	170101	50 ～ 99 人
24	2018	5	0 ～ 1	現場で薬液を瓶詰めする作業を行っていて、手袋に穴が開いていたのだが、それに気付かず作業をしていたため、左母指が薬液に直接触れてしまい、火傷を負った。	55	12	10899	1～ 9人
				分析室での作業中、洗浄や廃液を扱った後から目がヒリヒリとし始				100

25	2018	5	10 ～ 11	め、保護眼鏡を掛けず作業を行ったため、少しの水滴が目に入ったと思われる。帰宅後、目に異常な痛みと違和感があり、目が真っ赤になった。	36	12	170101	～ 299 人
26	2018	5	8 ～ 9	構内にて配管フランジ解放時、管内よりCOガスが留出し、ガスを吸引した。	38	12	30302	1～ 9人
27	2018	6	10 ～ 11	工場内で前処理の補助作業中、薬液の塩酸が作業服の上から付着し、作業服からしみ込んで皮膚に付着し、両腕と両足の皮膚に急性湿疹及び接触性皮膚炎を発症した。	20	12	11204	10 ～ 29 人
28	2018	6	8 ～ 9	めっき装置から排出した金の溶解液を、排水処理室のシャッターを開放して台車で室内へ搬入し、ペコペットを使用して廃液回収用ドラム缶へ入れる際、誤って硫酸銅めっき廃液用回収ドラム缶に入れたため、めまい・両手足のしびれ・痙攣を起こした。	28	12	11204	100 ～ 299 人
29	2018	6	10 ～ 11	鉄筋コンクリート造の旧校舎棟解体工事現場で、2階建て屋上付近で外壁石綿含有材をレベル1の養生の下、剥離工法の除去作業を行っていたところ、保護具を着用していたが、作業員9名中5名が有機溶剤中毒のとなり体調不良を訴え、腕や背中に化学熱傷を負った。	47	12	30201	10 ～ 29 人
30	2018	6	10 ～ 11	鉄筋コンクリート造の旧校舎棟解体工事現場で、2階建て屋上付近で外壁石綿含有材をレベル1の養生の下、剥離工法の除去作業を行っていたところ、保護具を着用していたが、作業員9名中5名が有機溶剤中毒のとなり体調不良を訴え、腕や背中に化学熱傷を負った。	37	12	30201	10 ～ 29 人
			8	培養製造チームで150Lタンクを使用し、乳酸菌の中和培養（本培養）を準備する段階で、送液ポンプホースA及びホースBに滞留している空気を排出する。アルカリ溶液（水酸化ナトリウム）を				30 ～

31	2018	6	～ 9	ホースAからホースBまで、更に溶液容器まで循環させて空気を抜くとき、ホースBから空気が吹き出し、溶液容器に吐き出され、その勢いでアルカリ溶液（水酸化ナトリウム）が容器口から飛び散り、右目に入った。	36	12	10109	49 人
32	2018	6	21 ～ 22	エアコン室外機の修理現場で、ガス圧を計るため室外機に工具を取り付け、作業後に取り外す際、途中で工具と本体の繋ぎ部品が固着し、ガスが漏れて左右の手の指（小指以外）にガスが掛かり、凍傷を負った。	34	11	11409	10 ～ 29 人
33	2018	6	15 ～ 16	工場の充填室で、洗浄剤を保管容器に移し替える際、洗浄剤が跳ね返り、左目に入った。	18	4	10109	100 ～ 299 人
34	2018	6	10 ～ 11	熱源機械室内で安全弁の検査中、安全弁の中にエタノールを注入し、窒素で加圧し、吹き始めの状況が確認されたため安全弁を覗き込んだところ、一気に吹き出し、両目にエタノールが入り、両目角膜を負傷した。	36	12	150101	1～ 9人
35	2018	6	14 ～ 15	剥離作業中、ニッケルメッキを剥ごうと硝酸液に製品を入れたとき、化学反応でガスが発生し、ガスを吸って肺炎を起こした。	25	12	11204	10 ～ 29 人
36	2018	6	8 ～ 9	船内で、亜鉛メッキスリーブ及びパイプサポートの溶接作業中、金属フュームを吸入してしまい、風邪のような症状が現れた。	23	12	11501	30 ～ 49 人
37	2018	7	5 ～ 6	床清掃時の有機溶剤（シンナー）をウエスに塗布し汚れを拭き取っている際に、過度に吸入し中毒を起こして、更衣室で倒れていたところを発見された。	65	12	40302	50 ～ 99 人

38	2018	7	22 ～ 23	配管のフィルター交換作業を行うため、配管及びフィルターの液量が全て抜き出せたと判断して、フランジ部を開放したとき、残存していた液が飛散し、両脚の大腿部に掛かった。	26	12	10801	100 ～ 299 人
39	2018	7	8 ～ 9	塗装室にてシンナーを使って治具等の洗浄中に昏倒、その際に背部にシンナーがかかり一部に熱傷を負い、飛沫が目に入り角膜炎になった。	34	12	10805	30 ～ 49 人
40	2018	7	12 ～ 13	戸建住宅の1F床下に生コンクリートを流していた際、床下が低いため四つん這いになり作業していたため、生コンクリートが付着し、全身を火傷した。	69	12	30202	1～ 9人
41	2018	7	10 ～ 11	鶏舎を消毒するために石灰を撒いていたところ、長靴の中に入れていたズボンの裾が汗で湿り、そこに撒いた石灰が付着して発熱し、その熱で両足の脛からふくらはぎにかけて火傷を負った。	40	12	70101	100 ～ 299 人
42	2018	7	22 ～ 23	製造ラインのベルトコンベヤーのカビ取りをするために使用していた薬品の原液が、左膝にかかり負傷した。	57	12	150101	30 ～ 49 人
43	2018	8	16 ～ 17	練乳生産終了後、床面に設置されたポンプを分解・清掃する際に、バルブの下側にキャップを付け忘れた状態でラインCIP洗浄を実施したため、アルカリ薬液がバルブから流出し、ポンプを分解・洗浄していた担当者の右耳・右肩・右背中付近にかかった。	27	11	10101	50 ～ 99 人
44	2018	8	15 ～ 16	蒸し窯の中を塗装中に気分が悪くなり、横になった後に記憶が混濁した。	69	12	30203	1～ 9人
			10	クロムメッキ加工の現場でメッキ槽から出て、水洗いの終了した製				100

45	2018	8	～ 11	品を装置から外す際に、水滴が膝周辺に落ちて濡れて、水滴には少量のクロムが混ざっておりズボンから足に染みて炎症を起こした。	46	12	170101	～ 299 人
46	2018	8	9 ～ 10	鉛製のルアーを磨いていたところ、マスクをしていなかったため鉛の粉じんを吸った。	21	12	11209	10 ～ 29 人
47	2018	8	12 ～ 13	コンクリート打設時、ノロ掃除のため下半身を地面に付けた状態で作業していたため、ズボンにコンクリートが付着し、水で洗浄したが、自宅でズボンを脱いだ際、両足が赤くなっており痛みを感じ、両下肢化学熱傷2度・3度と診断された。	48	12	30201	1～ 9人
48	2018	8	17 ～ 18	工場内の前処理場で洗い作業中に、尺で製品に塩酸をかけているとき、誤って両目に液体が入った。	45	12	170101	300 ～ 499 人
49	2018	8	8 ～ 9	薬液調合室にてフェイスマスク用の薬液を調合中、前回調合時に使用した強アルカリ水酸化カリウムが、作業用長靴内に混入していて、長時間皮膚と薬剤が接触していたため、第一趾周辺3×5cm程度皮膚の腐食による化学熱傷が発生した。	53	12	10899	30 ～ 49 人
50	2018	9	12 ～ 13	工場pH調整設備にて、硫酸ポンプの吐出不良の点検作業中、硫酸の注入ホース内の圧力を抜くことなく取り外したため、硫酸が飛散して受傷した。	42	4	170209	1～ 9人
51	2018	9	16 ～ 17	化粧品製造課調整室で釜洗浄をしているとき、洗浄用グローブをしていたが、左手首が赤く腫れた。	28	12	10899	100 ～ 299 人
			17	環境機器製造として機械の組み立てと塗装作業に従事しており、塗				100 ～

52	2018	9	18	～	装は防錆剤と上塗りを刷毛で行い、塗料はシンナーで希釈して使用しており、塗装作業中に気分が悪くなり、有機溶剤中毒となった。	24	12	170101	299人	
53	2018	9	18	～	環境機器製造として機械の組み立てと塗装作業に従事しており、装は防錆剤と上塗りを刷毛で行い、塗料はシンナーで希釈して使用しており、塗装作業中に気分が悪くなり、有機溶剤中毒となった。	24	12	11301	1～9人	
54	2018	9	12	11	～	自動キャリア式静止亜鉛鍍金装置の左側電極を磨くため、装置中央歩廊から排気フード上面足場に上がろうとして右足を掛けようとした。その際、バランスを崩して上体がメッキ槽側に傾き、顔面と左肩部分がメッキ液に浸り、顔・目・唇などを負傷した。	45	11	11301	50～99人
55	2018	9	13	～	工場pH調整設備にて、硫酸ポンプの吐出不良の点検作業中、硫酸の注入ホース内の圧力を抜くことなく取り外したため、硫酸が飛散して受傷した。	42	4	170209	1～9人	
56	2018	9	17	～	16 化粧品製造課調整室で釜洗浄をしているとき、洗浄用グローブをしていたが、左手首が赤く腫れた。	28	12	10899	100～299人	
57	2018	9	18	～	環境機器製造として機械の組み立てと塗装作業に従事しており、装は防錆剤と上塗りを刷毛で行い、塗料はシンナーで希釈して使用しており、塗装作業中に気分が悪くなり、有機溶剤中毒となった。	24	12	170101	100～299人	
58	2018	9	18	～	環境機器製造として機械の組み立てと塗装作業に従事しており、装は防錆剤と上塗りを刷毛で行い、塗料はシンナーで希釈して使用しており、塗装作業中に気分が悪くなり、有機溶剤中毒となった。	24	12	11301	1～9人	
59	2018	9	12	11	～	自動キャリア式静止亜鉛鍍金装置の左側電極を磨くため、装置中央歩廊から排気フード上面足場に上がろうとして右足を掛けようとした。その際、バランスを崩して上体がメッキ槽側に傾き、顔面と左肩部分がメッキ液に浸り、顔・目・唇などを負傷した。	45	11	11301	50～99人

60	2018	9	12 ～ 13	工場pH調整設備にて、硫酸ポンプの吐出不良の点検作業中、硫酸の注入ホース内の圧力を抜くことなく取り外したため、硫酸が飛散して受傷した。	42	4	170209	1～ 9人
61	2018	9	16 ～ 17	化粧品製造課調整室で釜洗浄をしているとき、洗浄用グローブをしていたが、左手首が赤く腫れた。	28	12	10899	100 ～ 299 人
62	2018	9	17 ～ 18	環境機器製造として機械の組み立てと塗装作業に従事しており、塗装は防錆剤と上塗りを刷毛で行い、塗料はシンナーで希釈して使用しており、塗装作業中に気分が悪くなり、有機溶剤中毒となった。	24	12	170101	100 ～ 299 人
63	2018	9	17 ～ 18	環境機器製造として機械の組み立てと塗装作業に従事しており、塗装は防錆剤と上塗りを刷毛で行い、塗料はシンナーで希釈して使用しており、塗装作業中に気分が悪くなり、有機溶剤中毒となった。	24	12	11301	1～ 9人
64	2018	9	11 ～ 12	自動キャリア式静止亜鉛鍍金装置の左側電極を磨くため、装置中央歩廊から排気フード上面足場に上がろうとして右足を掛けようとした。その際、バランスを崩して上体がメッキ槽側に傾き、顔面と左肩部分がメッキ液に浸り、顔・目・唇などを負傷した。	45	11	11301	50 ～ 99 人
65	2018	9	12 ～ 13	工場pH調整設備にて、硫酸ポンプの吐出不良の点検作業中、硫酸の注入ホース内の圧力を抜くことなく取り外したため、硫酸が飛散して受傷した。	42	4	170209	1～ 9人
66	2018	9	16 ～ 17	化粧品製造課調整室で釜洗浄をしているとき、洗浄用グローブをしていたが、左手首が赤く腫れた。	28	12	10899	100 ～ 299 人
67	2018	9	17 ～	環境機器製造として機械の組み立てと塗装作業に従事しており、塗装は防錆剤と上塗りを刷毛で行い、塗料はシンナーで希釈して使用	24	12	170101	100 ～ 299

			18	しており、塗装作業中に気分が悪くなり、有機溶剤中毒となった。					人
68	2018	9	17 ～ 18	環境機器製造として機械の組み立てと塗装作業に従事しており、塗装は防錆剤と上塗りを刷毛で行い、塗料はシンナーで希釈して使用 しており、塗装作業中に気分が悪くなり、有機溶剤中毒となった。	24	12	11301		1～ 9人
69	2018	9	11 ～ 12	自動キャリア式静止亜鉛鍍金装置の左側電極を磨くため、装置中央歩廊から排気フード上面足場に上がろうとして右足を掛けようとした。その際、バランスを崩して上体がメッキ槽側に傾き、顔面と左肩部分がメッキ液に浸り、顔・目・唇などを負傷した。	45	11	11301		50 ～ 99 人
70	2018	10	0 ～ 1	厨房内で換気扇の清掃中、作業当初はゴーグルを着用していたが、終盤に気が緩みゴーグルを外していたため、天井に吹き付けた洗剤が垂れ落ちて左目に入った。	41	12	140201		—
71	2018	10	14 ～ 15	事業所内の錆取り専用ブースで、扇風機2台で換気をしながら、商品車両の防錆ペイントを洗浄用シンナーで取り除いていた。その際、被災作業員が作業手順に従わず、無断でエアガンを使用したため、霧状に舞い上がったシンナーを吸い込み、体調不良となった。	43	12	170209		10 ～ 29 人
72	2018	10	15 ～ 16	会社敷地内の屋外で、板金製造のレーザー焦げを取る作業を行っていた。液体の入ったトレーから製品を取り出して水洗いしていたとき、右手グローブがまくれてしまい、液体が作業服の右袖に付着した。水洗いしたが、右腕に化学熱傷を負った。	23	12	11209		30 ～ 49 人
73	2018	10	10 ～ 11	工場化成品課内でメッキ装置フィルターの定期交換作業中、液漏れを確認したためスイッチをONにしたところ、ホース先端から液が噴き出して目に入った。	48	12	11403		100 ～ 299 人
74	2018	10	15 ～ 16	機械室でグラビア印刷機用パーツを洗浄する際、洗浄済みのパーツが洗浄機槽内に落ちていないか確認するため、洗浄機上部に上がろうとして転落した。その際、低酸素状態の槽内で酸素欠乏症によ	46	12	11209		100 ～ 299

				り心肺停止となった。					人
75	2018	10	15 ～ 16	機械室でグラビア印刷機用パーツを洗浄する際、洗浄済みのパーツが洗浄機槽内に落ちていないか確認するため、洗浄機上部に上がろうとして転落した。その際、低酸素状態の槽内で酸素欠乏症により心肺停止となった。	46	12	170101		300 ～ 499 人
76	2018	11	16 ～ 17	プラズマエッチング用ドライポンプユニットが液漏れしたため、ユニットの交換を行った。その際、ホースバンドを残したままポンプユニットの排気口を密栓してしまい、バンドを取り外そうと密栓部のネジを緩めたところ、内圧が高まっていたため内容液が飛散し、被災作業者の上半身に掛かった。	43	12	11403		300 ～ 499 人
77	2018	11	0 ～ 1	被災者は、オルトトルイジン等を原料とした化学物質の製造・乾燥作業に21年間従事していたところ、膀胱癌を発症した	56	12	10801		30 ～ 49 人
78	2018	11	0 ～ 1	学校・ボーリング場等の耐火被覆工事で、アスベストを手作業で処理していたため被災した。	71	12	30309		30 ～ 49 人
79	2018	11	15 ～ 16	会社内で、シンナーを使用してゴム加工品を洗浄していた。その際、マスクを着用していなかったため気分が悪くなり、過換気発作を起こした。	24	12	10806		10 ～ 29 人
80	2018	12	12 ～ 13	改装中の店内での勤務中、密閉された室内で塗料等の化学物質の刺激を受け、のどの痛みや頭痛など化学物質過敏症のアレルギー症状が出た。	64	12	80209		10 ～ 29 人
				P2棟2階にある未使用濃硫酸（98%）10～20?を廃棄処理するため、蓋のない樹脂バケツ（容量20?）に濃硫酸を3?程度入れ、数回					100

81	2018	12	15 ～ 16	に分けて集合槽へ運搬する非定常作業を行っていた。3回目の運搬中、T316（製品タンク）前の凹凸のある通路でつまずき、バランスを崩して、バケツ内の濃硫酸を顔面から上半身にかけて破り、化学熱傷を負った。	64	12	10109	～ 299 人
82	2018	12	16 ～ 17	当日、当社内洗浄場でゴミ受けのカゴを洗っていたとき、洗剤の入った容器を誤って蹴って洗剤が左足にかかった。	64	12	80209	30 ～ 49 人
83	2018	12	9 ～ 10	被災者は、ローリーからのフッ酸受け入れ作業中、フランジ面の隙間から僅かな白煙発生を確認した。被災者はローリー側の液相バルブを閉めしようとしたが、安全ロックによりバルブを回すことができない状態だった。そのためロックを解除したところ、何らかの原因で液相バルブが開きフランジ面の隙間からローリー内部に残っていたフッ酸のミストと蒸気が顔面方向へ噴出した。定められた保護具を使用していたが、咄嗟に顔をそむけた結果、面体の側面後方の隙間から顔面へ向けてミストと蒸気を暴露した。	64	12	10801	100 ～ 299 人

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各起因物における死傷災害100事例まで（2018年）](#)に戻る。